

平成28年度 峰小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成

(1)健康でたくましい子【元気】(2)よく考え進んで学ぶ子【やる気】(3)心豊かで、思いやりのある子【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「地域に学ぶ学校づくり」

- (1) 児童を主役とする学校をめざす。
- (2) 児童の長所を引き出し、ほめて伸ばすことができるよう支援する。
- (3) 教育目標を実現するために具体的な重点活動を掲げ、学校・家庭・地域が協力して活動できるよう努める。
- (4) 小中一貫教育を生かした教育活動の充実を図る。
- (5) 重点活動の評価項目及び具体的目標値を設定することにより、目標の具現化を図る。
- (6) 適切な評価者に評価を依頼し、目標未達成時は組織的に改善策を講じることで具体的数値目標及び教育目標に迫る経営をめざす。（目標管理手法を駆使しPDCAの改善サイクルを回す。）
- (7) 学校経営の重点目標を学級・学年経営計画及び全職員の行動規準表に反映し、全職員が同じ価値観で組織的に取り組んで、具体的目標値を達成する。
- (8) 評価を意欲及び成果向上の道具（ツール）として生かす学校経営をめざす。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 子どもを生かす学校
 - ・指示待ちから自ら進んで行動できる児童の育成
 - ・基礎・基本を確実に身につけさせる子に応じたきめ細かな指導の工夫
 - 学習意欲を高める楽しく分かる授業の工夫
 - ・児童主役の場づくりを積極的に行い、児童の成長を実感できる活動の推進
- (2) 組織を生かす学校
 - 教育専門職としての資質と能力の向上を目指した校内研修の活性化
 - ・組織マネジメントの考えに基づき、全教職員が教育目標を分担することによる目標の達成
 - ・教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌や指導形態の工夫
- (3) 地域を生かす学校
 - ・地域協議会を窓口として保護者や地域団体等の学校へのさらなる積極参画化
 - ・外部の学校評価などを活用し地域の人が学校へ来なくなる開かれた学校づくり
 - 地域活動等への積極的参加の奨励と相互理解

【陽東地域学校園教育ビジョン】

地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・最重点活動【峰小 元気・やる気・思いやり活動】
- ・全体で育てたい児童像…「自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる児童」
- 小中一貫教育フロンティア校として、システム構築に向けた実践の蓄積

【学 習 指 導】

- ・【やる気】「よく考え進んで学ぶ子」の実現活動
(スタンダード：学習面～基礎・基本を身に付け、進んで学習します)
- 基礎・基本の徹底学習活動
- 読書いっぱい活動
- ・「分かる授業」の展開～「分かる授業等実践研究」の推進

【児童生徒指導】 ・【思いやり】「心豊かで、思いやりのある子」の実現活動 (スタンダード：生活面～ルールやマナーを守り、協力して生活します) ○心を込めたあいさつ徹底運動～各種団体と連携したあいさつ運動の実施 ・「峰小よい子の一日」実践活動～ルールやマナーを守る態度の育成 【健康（保健安全・食育）・体力】 ・【元気】「健康でたくましい子」の実現活動 (スタンダード：健康・体力面～元気に運動し、健康でたくましい心と体をつくります) ○健康・体力向上活動～元気チャレンジ活動の推進 ・早ね・早起き・朝ごはん活動 ○食事好き嫌い撃退作戦
--

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学校行事や児童活動等で、児童が自主的・主体的に取り組む場を意図的に設定する。特に、<u>あいさつ運動では、児童の発想や主体性を生かし、学校全体であいさつの気運を高めていく。</u> ②Q-U テストや学校生活アンケートを活用して、一人一人の児童にとって居がいのある学級づくり、分かる授業の展開に努める。 ③学級活動やロング昼休みを利用して、学級全員で遊んだり教師と児童が共に遊んだりする機会をもつ。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.1%で十分に達成している。地域学校園で同一日のあいさつ運動や、児童会と保護者が連携したあいさつ運動を実施したことにより、あいさつの気運に盛り上がりが見られた。 学級担任は、Q-Uテストや学校生活アンケートを活用し、一人一人の児童の声に耳を傾け、居がいのある学級づくりに努めた。 【次年度の方針】 引き続き、児童が主体的に活動する場を設定し、その取組を支援していく。また児童同士、児童と教職員が共遊する時間を増やしていく。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケート「先生は大切なことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①児童の実態を考慮した、創意工夫ある学年・学級経営を実践する。 ②全職員が学校経営に参画している意識を持ち、学習指導・児童指導等の課題を共有するとともに、組織的な指導体制のもとで同一歩調で指導に当たる。 ○③校内研修の活性化、一人一授業の実施等を通して、一人一人の教員の授業力向上を図る		【達成状況】 児童の肯定的回答は98.5%で十分達成している。問題行動に対応する校内支援委員会、緊急時の速やかな対応会議など、共通理解の下全職員による指導体制で取り組んできた。また、授業力向上をめざし、校内研修や授業研究会を実施した。 【次年度の方針】 引き続き、情報や課題を共有し、全職員足並みをそろえて指導に当たる。一人一授業を効果的に実施し、教員の授業力向上を図る。

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○①「学習のきまり」を掲示し、必要に応じて確認させるなどしながら、学習訓練を徹底させる。 ②「峰小よい子の一日」に基づいた生活目標を設定し、学級活動や朝・帰りの会等で繰り返し継続的に指導していくことにより、基本的生活習慣を身に付けさせる。 ③「峰小よい子の一日」徹底運動を行い、めあてをもたせたり振り返りをさせたりして、自覚を深めさせる。	【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・保護者が、90%を超え、地域住民の肯定的割合は、100%である。児童も85%を超え昨年度を上回っている。 【次年度の方針】 「学習のきまり」や「峰小よい子の一日」徹底運動を継続し指導していく。さらに教師間の情報交換を密に行い組織的に学習・児童指導を行う。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①授業のめあてを明確にするとともに、板書や発問、授業形態等を工夫した授業を行う。また、終末には授業で分かったことを振り返る時間を持つ。 ②児童一人一人の実態をとらえ、教材研究をするとともに、学校課題の研究や一人一授業等で積極的に授業を公開し、互いの指導法を向上させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は97.6%であり、数値指標を大きく上回っている。昨年度に比べても、約2パーセント上昇している。 【次年度の方針】 今年度と同様に、めあての明示・発問や板書の工夫・授業形態の工夫・振り返りの時間の確保を行い、さらなる授業改善に取り組んでいく。また、一人一授業も継続して行い、指導法の向上を目指す。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上（いじめ解消率 100%）	①いじめ防止強調月間はもとより、あらゆる機会を通して、いじめが許されない行為であることを指導する。 ②アンケートや教育相談の結果を踏まえて、道徳や学級活動の時間に望ましい人間関係を醸成するための心情や判断力を育てる。 ③HP や学年だよりを利用していじめ対策を公表し、家庭・地域連携を図る。	【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・児童・地域住民は90%を超えている。保護者は、72.9%であったが、昨年度よりやや増加している。 【次年度の方針】 「いじめ防止強化月間」「教育相談」を実施する。いじめ抑止のためのアンケートを2か月に一回程度実施する。学級において道徳や学級活動などを利用して、いじめは許されないものだという心情を育てていく。また、HP や学校便り、児童指導便り、学年便り等を通して周知に努める。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】全体アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	授業時間の確保に努め、日課、授業、学校行事の前年度の反省や記録をもとに教育課程を実践する。 ②児童が主体となる活動の時間を確保し、内容の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は92.9%で十分に達成している。授業時間を確保するとともに、児童会主催の集会活動や各学年の音楽朝会など発表の機会を適切に配置し、児童の学校生活を充実させてきた。 【次年度の方針】 今年度の反省や記録を次年度に引き継ぐとともに、課題について話し合いや検討会をもち、より適切な教育課程を編成、実施する。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	①授業参観、学校自由参観、親子活動、ボランティアの積極的な受け入れ等により、学校を保護者や地域に公開する機会を多く設ける。 ②学校だよりや学年だより、ホームページ等で積極的に学校の情報を発信、提供する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は、96.2%、地域住民の肯定的回答100%で十分達成している。授業参観（祖父母の参加）、引き渡し訓練、学校自由参観、親子活動、感謝の会には、多くの保護者や地域住民が来校した。校内美化委員会（児童会）では、清掃ボランティアと連携して清掃に対する意識向上が図られた。 【次年度の方針】 引き続き、学校開放を推進していく。学校だより、学級だより、ホームページ等による定期的な情報発信を行う。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 企業、地域の各種団体「街の先生」、宇都宮大学、ボランティアなどとの連携・協力による活動をさらに充実する。 ②「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を密にし、学校運営の充実を図る。特に、地域コーディネーターと連絡・調整を図りながら、学校支援ボランティアの活用を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は96.4%で十分に達成している。年間を通して地域協議会、学校支援ボランティアが様々な活動を行い、児童の健康促進、安全確保、学習環境づくりを強力に支援した。また、外部団体、宇都宮大学と連携・協力し、有益な研修会や効果的な授業実践を行った。 【次年度の方針】 引き続き、地域協議会と連携し、地域とともに歩む学校づくりを推進していく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①教室内外の掲示物を整えるとともに、定期的にロッカーや机の中を整頓させるなどして、学習にふさわしい環境を維持する。 ②場所に応じた清掃の仕方の指導の工夫し、縦割り班清掃を通して望ましい環境整備に努める。 ③長期休業等を利用して、特別教室や資料室の整備を行う。	【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答割合は、それぞれ90.1%、93.8%で、数値指標を上回っているが、昨年度よりは低下している。 【次年度の方針】 縦割り清掃がさらに有効に機能するように、清掃区分の明確化・班長への指導の充実・指導者の分担場所の見直しを行う。
B 1 児童は、峰小の合言葉「元気・やる気・思いやり」を意識して生活している。 【数値目標】全体アンケート「学校は、『元気・やる気・思いやり』の合言葉を意識して生活するよう指導している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①峰小の合言葉を行事や活動のねらいに位置付け、意識化を図る。 ②学校便り・学年だよりに児童の活動の様子を掲載し、合言葉の周知を進める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は93.4%で十分に達成している。学校行事や校内掲示物、学年だより等への関連記事掲載・写真挿入で「元気・やる気・思いやり」を位置づけ、意識化を図ってきた。 【次年度の方針】 行事や集会等で、合言葉に沿って児童が活動する様子を示すことにより、よりよい校風づくりを推進する。

教育活動の状況	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	○①あいさつ運動月間を設定するとともに、PTAや地域協議会、地域学校園等と連携したあいさつ運動を実施する。 ○②教職員が率先してあいさつをする。 ③あいさつの効果や重要性について、道徳や学級活動の時間を活用して指導する。	B 【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・地域住民・児童はおよそ90%となった。保護者は、80%程度となった。 【次年度の方針】 年に2回のあいさつ運動を実施し、PTAや地域協議会と連携すると同時に、陽東中学校園として、中学校の生徒会とも連携を取りながら率先してあいさつができるようにする。
	生活	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①場に応じた言葉づかいについて、道徳や学級活動の時間、校外学習や学校支援ボランティアとの交流の機会等を利用して指導する。 ②日々の生活の中で教師が模範を示すとともに、特に目上の人への言葉づかいについて、機会をとらえて指導する。	B 【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・児童は80%を超え、地域住民は100%となった。保護者は、74.8%だった。 【次年度の方針】 教職員が範を示すとともに、日ごろの授業や学級経営などを通じて言葉づかいについて考える機会を設け、粘り強く指導していく。
	生活	B6 児童は、自分の特徴や友達の良さに気づき、自他を尊重している。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、自分や友達の良さに気づき、自他を大切にしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さにについて考えたり伝えあったりする時間を設ける。 ②人権を尊重し、いじめを許さない態度や実践力を育てる道徳の授業を、全学級、年1回は授業参観で実施する。 ③実態調査を、年に数回行うとともに、教育相談を行う。児童一人一人と向き合い、共感的理解を心がけるとともに、悩みを把握しその解決を支援する。	B 【達成状況】 教職員・保護者・児童の肯定的回答割合は、90%を超えている。 【次年度の方針】 全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さにについて考えたり伝えあったりする時間を意図的に設ける。さらに全職員による情報交換・授業交流などを通して全校体制で自他を大切にする指導を継続していく。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①スポーツ集会において、多様な運動を意図的・計画的に実施し、基礎体力の向上に努める。 ②昼休みに共遊の時間を設けるなどして外遊びを奨励し、体を動かす楽しさを味わわせる。 ○③「うつのみや元気っ子チャレンジ」に参加し、楽しみながら運動する機会を数多く持たせる。	B 【達成状況】 教職員・地域住民・児童の肯定的回答は90%を超えている。業間や昼休みには、校庭で遊ぶ姿がみられる。放課後も、留守家庭児童会や放課後子ども教室、帰宅後に学校に集まって遊んでいる様子が見られる。 【次年度の方針】 学校から放課後や土日の運動の情報発信を継続していく。

	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は好き嫌がなく給食を食べている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○①家庭の意識を高めるために食育だよりを毎月1回発行するとともに、親子活動などで栄養士による食に関する学習会を行う。 ○②児童の栄養に対する意識を高めるため、栄養士と連携した授業や栄養指導を行う。 ○③ランチルームや各階廊下の食育コーナーを整備する。 ④給食週間やお弁当コンクールなどの食育行事に進んで参加するよう支援し、各自の望ましい食習慣の醸成を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答が83.1%と上昇し、昨年度から改善が見られる。 【次年度の方針】 食育だより等で良い面を保護者に発信し、給食への関心や取り組みに目を向けてもらうとともに、児童には給食時計を使って時間の使い方を考えさせる。また、給食週間等に自分なりのめあてを振り返る時間を設定する。
	B2 児童は、各種検定カード等をもとに、めあてをもって運動に取り組んでいる。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、検定カードなどをもとにめあてを決め、達成に向けて努力している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①新体力テストの結果から、課題を明確にし、スポーツ集会や教科体育の時間に計画的に補強していく。 ○②各種検定カード・ミニマムを活用して各人に応じためあてをもたせ、教科体育や休み時間に取組を支援する。 ③取組の様子を、「元気活動」として学校だよりや学年だよりで家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は89.8%と概ね達成し、昨年度をやや上回っている。学校と家庭を往復できる検定カードを活用し、家庭の協力を得ることができている。 【次年度の方針】 引き続き児童にめあてをもたせ、取り組みを奨励していく。児童同士での教え合い高め合う機会を設けていきたい。特になわとび検定では、技を伝達する機会を設け、さらに意欲・技術の向上をはたらきかけたい。
	B5 児童は、自分の歯に関心を持ち、食後丁寧に歯磨きをしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分は、食後ていねいに歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①歯と口の健康に関する意識を高めるために、学校医や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ②保健だよりを毎月1回発行するとともに、むし歯のない児童や歯磨き名人を表彰して歯磨きへの意欲を高める。 ③保健委員会やボランティアを活用して、歯磨きの個別指導を実施する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は92.2%で達成している。音楽に合わせて、落ち着いた雰囲気歯磨きをしている。 【次年度の方針】 きらきらクラブの実施方法の検討をし、児童一人一人の歯磨きのやり方の向上を目指していきたい。また、クラス一斉の歯磨きが乱れていることもあるあるので、クラス全員での歯磨きをさらに徹底していきたい。
学 習	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○①「話し方のきまり」を掲示し、児童が発言したり話し合ったりする際の参考にさせる。 ○②授業の中に児童が考えたり話し合ったりする時間や自分の考えを発表する場を設け、児童が多様な考えをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は92.9%で、昨年度を大きく上回り数値指標を十分に達成している。 【次年度の方針】 児童の発達段階に合わせた「話し方のきまり」を作成・掲示し、話合いのスキルを高める。また、引き続き授業の中に話し合う場を意図的に設定し、児童が主体的に学習に取り組めるように支援していく。

本校の特色・課題等	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	○①授業の準備をしっかりとともにチャイムの合図を守り、落ち着いて充実した授業が展開できるようにする。 ○②「聞き方のきまり」「声のものさし」等を活用して授業態度を指導し、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められるようにする。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は96.8%で、昨年度を上回り、数値指標も達成している。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、学習用具の準備・チャイム着席を励行する。 「聞き方のきまり」「声のものさし」を作成・掲示し、教職員が共通理解のもとに指導に当たる。
	○B7 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「自分の子どもは、家庭学習（宿題）をしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	○①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭時間の目安や自主学習の例などを示して、児童が主体的に家庭学習に取り組めるようにする。 ②家庭学習に対して適切な評価をするなど、児童の意欲を高める工夫をする。 ○③学年だよりやHP等で家庭学習の意義や期待される効果を取り上げ、保護者の協力を得る。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答割合は84.5%で数値指標を達成しているが、昨年度より減少している。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣化を図っていく。その際に、提出のさせ方や評価の仕方を工夫し、児童の意欲を継続的に高めるようにする。また、学級懇談会や学年だより、HP等で家庭学習の意義や期待される効果を話題にし、保護者への啓発を図る。
	OB3 児童は、読書の習慣がついている。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、楽しく読書をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○①週2回の読書タイムを確実に実施する。 ②読書ノート「みね読書人」の活用を通して一層の活用を図る。 ③図書館だよりや「読書いっぱい活動」により、家庭と連携して「家読」を奨励する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は90.3%で、数値指標を上回っている。しかし、保護者の肯定的回答割合は74.5%にとどまっている。 【次年度の方針】 昨年度に比べ、図書の貸し出し冊数は増加してきているので、次年度も「読書タイム」の実施・「みね読書人」の活用・「読書いっぱい活動」の実施などを継続し、読書習慣の形成を目指していく。
	B4 学校は、異学年・異校種間の交流や保護者・地域の方との交流により学校生活に潤いをもたせ、「来たくなる学校づくり」を推進している。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、異学年の友達や地域の方々と一緒に、充実した活動をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童会活動や学校行事等において、縦割り班での活動積極的に行き入れる。 ②授業や委員会、クラブ活動などにおいて、幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流を積極的に行い、内容の充実を図りながら、児童との豊かな心情を培う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は89.8%で十分達成している。「なかよしタイム」「なかよし給食」「縦割り班清掃」での異学年交流により望ましい関係が築かれ、児童が楽しく学校生活を送る姿が見られた。「おやじの会」地域人材を学校行事や授業等に招致したことは、充実した活動に繋がった。 【次年度の方針】 縦割り班での活動を継続し、卒業生や外部人材の交流の機会を確保するなど、「来たくなる学校づくり」を推進していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「**学校運営**」に関わる内容項目では、90%以上の高い肯定的回答が得られた。なかでも、A1「学校の雰囲気」A2「教職員の指導」A7「情報の発信」A8「家庭・地域・企業との連携」については、肯定的割合が高く、95%以上であった。このことから、地域協議会と連携した学校教育支援ボランティアの活用により、陽東地域学校園教育ビジョンである「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通し、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」また、本校の学校経営の理念である「地域に学ぶ学校づくり」が、明るく活気のある雰囲気のもとで、教職員の指導力を生かしながら推進されていることが分かる。

以下は本校の最重点活動である【**峰小 元気・やる気・思いやり活動**】の視点から考察をする。

「**健康・体育**」【**元気**】においては、A12「運動する習慣」についての肯定的回答が、児童・教職員・地域住民の3者の肯定的回答は90%以上であるが、保護者の肯定的回答が低い。これは、全市的な傾向である。保護者や地域住民に対する質問内容が、今年度は「休み時間や放課後などに」から「平日の授業後や休日などに」に変わり、家庭や地域での様子を中心に判断するものとなったが、この結果から休日に運動する児童が少ないことが分かる。今後も家庭や地域と連携し、運動の習慣化を図っていきたい。

健康面では、食育についてみると、A13「バランスのよい食事」については、教職員が好き嫌いを減らそうと課題意識をもって取り組んできたため、児童の肯定的回答の割合が向上した。B5「歯みがきの習慣」は、児童や保護者の肯定的回答が、90%を上回り、学校や家庭において望ましい習慣が形成されていると言える。

「**学習指導**」【**やる気**】においては、昨年度と比較して肯定的回答が大きく上回ったのは、A14「積極的に学習」A15「落ち着いて学習」であった。また、A4「分かりやすい授業ときめ細かな指導」B3「読書の習慣」も上回っていた。児童の学習意欲が高まり、友達と楽しくコミュニケーションをとりながら学習に取り組んでいる。また読書指導の工夫により読書の習慣もさらに定着してきた。

下回ったのは、A9「学習しやすい環境」B7「家庭学習の習慣」であった。次年度は、児童が望ましい学習環境のもとで、さらに主体的に学習に取り組めるよう環境整備に努め、教師の授業力向上をさらに図りながら指導・支援の充実を図りたい。また、「家庭学習の手引き」等の活用により、家庭学習もさらに習慣化できるよう継続的に指導していきたい。

「**児童指導**」【**思いやり**】においては、A3「規則の遵守」・A10「あいさつ」・A11「言葉づかい」B6「自他の尊重」について、昨年度より肯定的回答が上回っている。特に、「あいさつ」については、教職員の肯定的回答が大きく上回り、校内でのあいさつが定着してきていることが分かる。

いじめ対策については児童・教職員・地域住民の3者の肯定的回答は97%以上であるが、保護者の肯定的回答が、昨年度と同様低い傾向にある。今後も、保護者の理解を得るとともに、教職員自身が危機意識を持って範を示しながら、「その時、その場で、その人が」指導することを徹底したい。

今後も積極的な情報の発信に努め、地域・保護者の協力を仰ぎながら「チームみね」としての組織力を活用し、全職員で連携しながら、学校運営・改善に当たっていきたい。

6 学校関係者評価

児童の食生活や運動、家庭学習等、家庭での様子についての質問において、保護者の肯定的回答が他より低いのは、保護者の児童に求める期待値が高いために、肯定的回答が低めに出してしまうのではないかと考える。放課後の運動や、家庭学習については、峰宮っ子ステーションにおいても、児童が気軽に参加し活動できる場を設けているが、地域においてもできることをさらに考え、計画・実践につなげたい。

峰地区の各団体で行事を実施する場合は、他の団体にも声をかけ、複数団体としての活動ができるようになると、内容もさらに充実すると思われる。今後、団体間の連携を図っていきたい。

児童対象の着付け教室では、参加する様子を見ながら保護者も学ぶ姿が見られた。講話や親子で参加するイベントなど、様々な内容で親学の開催を通して、子育て支援をしていくとよいのではないかと考える。

子どもたちのために、保護者として地域住民として、どう関わればよいのかについて今後も考えていきたい。たとえば子どもへの情報の伝え方については、親が正しい判断をしてきちんと伝えたい。

地域協議会としても今年度の成果と課題を踏まえ、今後も活動を工夫・継続していきたい。

7 ままとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校関係者の皆様からのご意見から、本校児童、教職員が温かく見守られていることが理解できた。今年度の評価をもとに一人一人の児童がより充実した学校生活を送れるよう、個を生かす学年・学級づくり、分かりやすい授業づくりに、引き続き努めていきたい。また、学校や児童の様子を保護者・地域に適宜発信したり、学校公開を進めたりしながら連携を図り、学校支援ボランティアとして学校に関わっていただく機会を増やすなど、地域ぐるみで児童を育てていこうとする気運をより一層高めていきたい。

今年度明確になった成果と課題を踏まえて、次年度も、学校運営の最重点活動である【**峰小 元気・やる気・思いやり 活動**】を全校体制で推進していきたい。

【元気】

- ・「**健康でたくましい子**」の実現活動として、「健康・体力向上活動」「早ね・早起き・朝ごはん活動」「食事好き嫌い撃退作戦」を推進していく。特に、児童に望ましい食習慣や運動習慣を身に付けられるよう、学校の取組について積極的に発信しながら家庭と連携して、効果の表れる協力の在り方についてさらに検討していきたい。

【やる気】

- ・「**よく考え進んで学ぶ子**」の実現活動として、「基礎・基本の徹底学習活動」「分かる授業」「読書いっぱい活動」の展開に努める。授業中には、話し合いの場を意図的に設定し、受容的な雰囲気のもとで思いや考えを伝え合う活動を積み重ねていくことにより、コミュニケーション能力の育成を図る。また、家庭学習についても、個に応じた支援に努めながら、さらに習慣化を図りたい。

【思いやり】

- ・「**心豊かで思いやりのある子**」の実現活動として、陽東地域学校園やPTAと連携した「心をこめたあいさつ徹底運動」や「峰小よい子の一日」実践活動、さらに陽東地域学校園で共通して取り組む「ほめる教育」を推進することにより、基本的生活習慣やルール・マナーを守る態度、及び自他を大切にすることの心情の育成に努めたい。